

親知らずについて

◆親知らずとは

だいきゅうし
大臼歯（大人の奥歯）の中で最も後ろに位置する歯で中央の前歯から数えて8番目にあり、永久歯の中で最後に発育します。7番目までの大人の歯は通常15歳くらいまでに生え揃いますが、親知らずは生える時期が概ね10代後半から20代前半であり、親に知られることなく生えてくる歯であることがその名の由来だとも言われています。

通常親知らずは上下左右で4本ありますが、人によってない場合や本数に差があります。また、あごの骨の中にはあるが、生えない場合や一部分だけ生えてくる場合もあります。

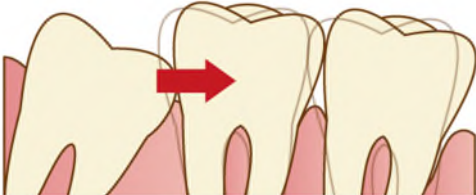
◆親知らずを抜いたほうがいい場合

【その1 親知らずあるいは手前の歯がむし歯になってしまった場合】



一番奥の歯は歯ブラシが届きにくく、むし歯になりやすいです。治療をしたとしても再びむし歯になる効能性があるため、抜いたほうがよい場合があります。手前の歯がむし歯になってしまった場合は、すみやかに親知らずを抜いて、手前の歯の治療が必要です。

【その2 横向きに埋まっていて、歯ならびなどに影響を及ぼす場合】



親知らずが手前の歯を押して、歯ならびが変わってくることがあります。また、手前の歯の根の吸収（歯の根が溶かされること）が引き起こされることもあります。

【その3 歯の一部分だけが見えている場合】



歯の一部分だけが見えている場合は、食べ物が詰まりやすく、不潔となり周囲の歯肉に腫れや痛みを引き起こし、繰り返すことがあります。

◆親知らずを抜かなくてもいい場合

- ・親知らずが上下できちんと生え、かみ合っている
- ・あごの骨の中に完全に埋まっていて、腫れや痛みなどの症状がない など

**上記は一般的な話のため、個々の症例に必ずしも当てはまるわけではありません。
親知らずについては、かかりつけ歯科医院に相談することをおすすめします。**